



WEEKLY REPORT

高山中央ロータリークラブ

2015～2016 年度 高山中央 RC 会長テーマ

「外に発信 内に達成感 さあ行動しよう！」



◆会長 大保木 正博 ◆幹事 坂之上 健一 ◆会報委員長 谷口 欣也 ◆会報担当 道下 利一

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市本町1-2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

<出席報告>

	会員数	出席会員	出席	Make-up	出席率
本日 1076 回	53 名	52 名	44 名	—	84.62%
前々回 1074 回	53 名	52 名	37 名	4 名	78.85%

<点 鐘> 会長 大保木正博
<ロータリーソング> 奉仕の理想
<高山中央ロータリークラブ職業倫理基準>

<会長の時間> 会長 大保木正博

今月は職業奉仕月間です。

第 2660 地区のロータリー百科事典の中に「ロータリーの心と実践」という項目があります。その中の職業奉仕には次のようにあります。



ロータリークラブは職業を絆とする人達の集まりですから、まず何よりも会員各自がその職業に関係する全ての人々の立場に立ち、高い倫理観をもって職業活動を行なうことです。

ロータリアンは日常の職業活動を通して、自らの品位と道徳的水準を高め、自分の職場の従業員、取引先の人達やその関係者、ひいては地域社会の人達の模範となり、それを社会に反映させることによって、社会から尊重される存在となるよう努力することが必要です。

そのような会員を育てる道場が、ロータリークラブであり毎週の例会なのです。

例会での異分野の人たちとの交流を通して自己の道徳的能力、専門的能力を高め、その成果を職場に持ち帰って職場の人達やその関係者の能力向上に努め、その成果を再び例会に持ち込んで、異分野の会員と情報交換するということの繰り返しで、さながら螺旋階段を昇るがごとくに、自己の道徳的、専門的能力を高めていくのが、例会出席の意義です。

そのためのプログラムの立案・実行、すなわち「入りて学び、出でて奉仕」のための研修と勉強会の支援がクラブ職業奉仕委員会の大切な役割です。

13 年前の阪神大震災で、がれきの下から奇跡的に救助されたのをきっかけに自衛隊員になった陸上自衛隊第 3 特殊武器防護隊の安藤良平陸士長(22)～兵庫県伊丹市～が 1 月 16 日、助けてくれた自衛隊愛知地方協力本部の篠原光繁陸曹長(46)と初めて対面しました。対面は、安藤さんが「助けてくれた自衛隊員にお礼を言いたい」と上司に伝え、実現したものです。

この日、神戸市中央区の自衛隊兵庫地方協力本部で篠原さんと対面した安藤さんは自衛隊の迷彩服姿で「13 年前は本

当にありがとうございました」と目を潤ませ感謝の言葉を述べ、握手を交わしました。

命の恩人を前に安藤さんは「ずっとあなたの背中を追ってきました。そして私も人を救助する側になりました。この迷彩服姿をあなたに見てほしかった」と報告しました。

～篠原さんによると、震災当時は兵庫県姫路市の別の隊に所属しており、震災当日の午前 8 時ごろに被災地に入り、午後 6 時ごろ神戸市兵庫区内のマンションの一室で倒れかかった家具と壁のすき間でぐったりとしている当時 9 歳だった安藤さんを発見、「僕、大丈夫か？」と抱きかかえると、篠原さんにしっかりとしがみついていたといいます。篠原さんは「当時、生きて救助できたのは 2 人だけだった。そのうちの一人の少年が自衛官になったと聞いたときはとても驚き感激しました。」

そして篠原さんは安藤さんの手を取り「これからは、あなたが頑張ってください」と激励されました。

自衛隊員の篠原さんが安藤さんを救助されたのは奉仕という意味ではなく、自分の職業の中での行動でしたが、そこには何が何でも人を救助するという崇高な職業感、職業倫理が強力に感じられます。極限状態で篠原さんが身をもって示されたその強力な倫理観と思いが、安藤さんを自衛隊員へと誘ったのだと思います。

私たちが力を入れている出前講座について、先述の第 2660 地区の「ロータリーの心と実践」の“職業奉仕”では、『会員の職業(専門的知見)を生かした奉仕(出前授業、職場体験学習、よろず相談等)を行うことは、出前講座が社会奉仕か、職業奉仕かなどという縦割りの議論を超えて、ロータリーが今の社会ニーズにどう応えるかという意味から非常に有用だ』とされています。

私たちが今までの経験の中で培ってきた人生観や職業にかける思いと行動を出前講座で中学生に語ることは、必ずや彼らの心に届き、将来への一握の希望と糧になることを信じます。

<幹事報告>

幹事 坂之上 健一

◎R I 本部より

・ザ・ロータリアン誌

◎国際ロータリー第 2630 地区ガバナー事務所より

・ソウルでの「第 17 回ロータリー国際囲碁大会」のご案内

日時：5 月 30 日(月) 9:30～

- 会場：韓国・ソウル R I 国際大会 会場
- ・2015-16 年度地区補助金最終報告書受理通知書
 - ・2015 年各セミナー報告書
- 高山ロータリークラブより
- ・例会休会について
 - 2月11日(木)休会(法定休日)
 - 3月31日(木)休会 定款により
- <飛騨高山国際協会事務局より>
- ・人権講演会のご案内
 - 日時：2月13日(土) 13:30~15:30
 - 会場：高山市民会館 小ホール
- <高山市教育委員会より>
- ・平成 27 年度高山市キャリア教育を考える会総会のご案内
 - 日時：2月16日(火)
 - 会場：高山市役所 3 階

<本日のプログラム>

職業奉仕委員会 足立 委員長

創立 25 周年記念例会も無事終了し、ガバナーを送り出せるクラブに成長を続けております。20 年前のロータリーは、職業奉仕が最大の奉仕活動だったと記憶しております。ロータリーも活動方針が、時流に乗って変わってきていますが、自社企業と家族があつてのロータリー活動だと思いません。

今日の会員スピーチをお願いしたお二人は、一世代若い会員さんで、私は孫の参観日、彼らは子供の参加日に幼稚園で会います。若手の経営者の考えを、我々世代が刺激として聞かせて頂きたく例会を企画しました。関連な経営者のエネルギーを初老会員にお与えください。



長瀬 栄二郎 会員

本日は、職業奉仕について、高山中央ロータリーの中でも若手ということでお話しをさせていただく時間をいただきました。

ロータリーの目指す職業ありきの奉仕活動について、自分の考える職業奉仕とは何であるか、また、職業奉仕の視点から、自分が常日頃いかなる思いで仕事に取り組んでいるかをお話ししてみたいと思います。

33 歳でロータリーに入会させていただいてから、気付けば 42 歳になり、いまだに最年少の新人のようなつもりでおりますが、時間の経つのは早いものと実感しております。諸先輩を前にこんなことを言うと叱られてしまいますが、最近では体力の低下を感じて、運動もしなくてはと焦る毎日です。

そもそも、入会させていただく時から、ロータリークラブは一生懸命仕事をする人の集まりであると聞いていて、いわゆるボランティアといった奉仕ではなく、一生懸命に仕事に取り組むことで社会の発展に寄与するという、これを職業奉仕としているという考えに共感しておりました。

そのうえで忙しい皆さんが週に一度、お昼に時間をとって集まり、同じく経営者として、互いに共感し得る時間をもつことができるということに、今もとても意義を感じております。実際にロータリーに入会させていただいて、皆さんからとても親切に接していただき、「長瀬君、調子はどうか」といったお声掛けをいただけることが、とても

有難いと実感してまいりました。

私は 24 歳で東京から高山へ来て、すでに 18 年が経とうとしています。

もともと、両親の実家が高山にあつて、高山の地が好きでこちらへまいりました。

当初、なかなか仕事もないなかで、そもそも誰も自分を必要としない現実と直面し、そもそも必要としないだけではないことにはいかなる仕事も成り立たないのだということに身に染みて教えられました。

たまたまの出会い、ご縁を大切に、その機会に精一杯の仕事をするのでしか先

は開けていかない。全力で仕事に取り組んで、その結果としてお客様からの「ありがとう」とともに報酬をいただく。そうすることで、仕事を通して期待されている役割を全うし、自らの事業をきちんと成立させる。

こうして仕事をするという、そのすべてが、まさに職業奉仕そのものなのではないかと考えております。

ロータリーで皆さまとご一緒させていただき、皆さまから激励を受け、仕事への取り組みへの活力とさせていただいております。職業奉仕の精神を忘れることなく、これからも日々精進していきたいと考えております。

本日はありがとうございました。



高橋 厚生 会員

【職業観について】

前回スピーチをさせていただいたのが平成 26 年 3 月だったかと思えます。その際は、仕事内容や建設業界について話をさせていただきました。今回は、「自分の思う職業奉仕」についてお話をさせていただきます。

平成 25 年に三重県の桑名にて行われた地区大会の基調講演にてお聴きしたのですが、「職業(仕事)」のもつ意味合いには 2 つあると思っております。

【商品】を提供して⇔【お金】をいただくように目に見えるものと、【満足】を提供して⇔【感謝】をいただくように目に見えないものがあり、この目に見えないものこそ「職業奉仕」だと考えています。

私はそれまで、「奉仕」という言葉には、「ボランティア(無償)」のような印象を持っており、個人的には、「無償の行いは、継続性が危うい」と考えていたため、ロータリーのいう「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」という言葉が、正直、腑に落ちませんでした。

ですが、先ほどのように、「職業(仕事)」に二つの面があると考え、【商品】⇔【お金】の関係だけでは、一度きりの関係、その場だけの関係であり、商売に継続性が生まれません(リピーターはできない)が、【満足】⇔【感謝】の関係ができると、商売として継続性ができる。つまり、最も多く(永く)報われることにつながると思っています。

実践できているかと問われれば、残念ながら、すべてのお客様に満足をご提供でき、感謝していただけているとは思えませんが、今後もそうなれる様、努力しなければならぬと考えています。

また、社長としての職業(仕事)には、「雇用の継続」という大きな仕事もございます。

【労働】を提供してもらい⇔【給与】を支払う関係を目に見えるものとする、社員に【満足】を提供し⇔【感謝】



をいただく関係を築くことが、社長の職業における「職業奉仕」ではないかと、遅ればせながら考えるようになりました。

こちらこそまだまだ[道半ば(みちなかば)]では、ございますが、努力しなければと考えております。

今回、職業奉仕委員長の足立さんからお話をいただいた際に、何をどう話して良いものかと考えました。何分、若輩者でございますので、未熟な考えにご意見多々あるかと思えます。今後ご指導ご鞭撻をいただけますようお願いし、スピーチとさせていただきます。ご清聴ありがとうございます。



<ニコニコBOX>

息子が昨年 12 月に税理士試験に合格することができました。本当に助かりました。

岡崎 壮男

誕生日をありがとうございました。

周 信夫

本日、早退させていただきます。

永田 富次 富士井 忠男

インフルエンザがそろそろ危ないようです。皆様もお気を付け下さい。

植木 眞吾

ニコニコ委員長より 目標額まであと 386,500 円です。楽しい事・嬉しい事・何でも結構ですので皆様よろしくお願ひします。誕生日のお祝いをありがとうございました。1 月 30 日は僕、31 日は都竹太志君の誕生です。僕も太志君みたいな男らしい男になれるように少しは頑張りたいと思ひましてニコニコへ。

高木 純